

令和元（2019）年度 全国指導委員長会議・研修会報告書

報告者 山形県山岳連盟 指導委員長 菅野享一

開催日 令和元年6月1日、2日

会場 東京都 晴海海員会館

出席 全国47都道府県内42都道府県出席

【1日目】

日本山岳・スポーツクライミング協会 亀山副会長挨拶から

挨拶の冒頭5月17日に「JMSCA ジムスカ（日本山岳・スポーツクライミング協会略称）」の沢田実国際委員長がロシアカムチャッカのカメニ火山で滑落死亡したことの報告があり参加者全員で黙とうを捧げた。

今登山界は未憎悪の危機に陥っていると考えている、山岳会が機能しなくなって消滅していくそれによって都道府県山岳連盟も経営難や組織の衰退が懸念されるなか、片や山岳遭難事故は増加傾向にあり、ジムスカや都道府県山岳連盟（協会）も基本的には安全登山の啓発をしながら山岳遭難を減らすというのが活動目的の一義であるが、思うような対応が出来ていないことは残念なことである。これから日本山岳会や労山、日本山岳連盟など諸々の団体が一致団結して遭難事故の減少に取り組んでいくことが大きな課題であり、ジムスカが変わらないと日本の山岳会は変わらない、それを担っているのは登山部（指導・遭対・普及）諸々の委員会であることを念頭に入れて登山の安全活動にまい進していただきたい。



亀山副会長

UIAA 準拠ということで「夏山リーダー」を進めているが、広く一般登山者の安全に寄与する活動になっていただきたいと考えている。また、ガバナンスやコンプライアンスといった、持続可能な活動を支えて行く為には高潔性を保つことが求められており、指導の立場からより倫理性を持った経営、活動に留意し、特に公金を扱う委員会は厳しい自己管理、正しい会計処理を行いガバナンスに準じた活動を続けて欲しい。この2日間皆さん知恵を出して、何をしていったら良いのか、指導も含め話し合ってもらいたい。

蛭田指導委員長挨拶から

今回を機に、日本山岳・スポーツクライミング協会の呼称を「ジムスカ」に統一したいので宜しく願いしたい。

各都道府県山岳連盟（協会）にあっても、スポーツクライミングを追加した名称に変わってきている。

又、法人化についても取り組んでおり、社団法人化に向けた弁護士に係る初期費用はジ

ムスカで負担するが、毎年の会計費用については各都道府県連盟（協会）で必要になるが、日本スポーツ協会や県スポーツ協会等からも信用性の面からなるべく法人化にして欲しいとの要望もあり、銀行通帳も個人から団体での管理となり、資産引継も容易で社会的信用度も高くなるので今後法人化への移行が多くなっていくと思われる。

登山部では指導委員会、遭難対策委員会、自然保護委員会を中心に一般登山者の事故防止のため「夏山リーダー」制度を整備し講習会を開催し安全登山の普及を図っていきたいと考えているが、講習会は各都道府県山岳連盟（協会）の指導委員会の皆さんにお願いしなければならないのでご協力いただきたい。

－ 研修会 －

新スポーツ指導者制度について（蛭田委員長）

はじめに、3月8日付けで各都道府県山岳連盟（協会）へ指導者育成講習会及び検定会に於ける不正経理について通知しているが、内容はH29年度の事業で講師への謝金支払の際体協に申請していた講師でない人が受領していたことが判明したもので、意図的ものではなく都合により講師を交代したことから実際に携わった方が受領したというもので、当初申請と異なった場合事前の変更手続きが必要なので徹底して欲しい。また、謝礼支払の際に源泉徴収を体協でした場合、該当者へ支払確認通知がされるので、都道府県山岳連盟（協会）への協力金としていくらか差し引いた額で受領するのも不正な行為になるので注意して欲しい。



<指導者育成講習会及び検定会の実施に関する受講費及び謝金等の説明>

幾つかこれまでと違った事務処理が出てきているが、委託事業の場合の支払いは原則口座振込となった。やむをえず現金支払いをする場合は、講習会後の日付、住所、本人サインの記載が必要である。又、毎年12月頃に県スポーツ協会から翌年度の養成講習会実施のアンケート調査が県山岳連盟（協会）の事務局へ連絡が行くので確認いただき、このアンケートで「実施する」で回答しないと日本スポーツ協会へ申請したことにならないので注意して欲しい。

そうすると翌年の3月頃に4月以降開催される実施要項が配布されるので、これに基づき「開催要項」を作成することになる。ランクによって人数も違うが委託事業の基準人数は山岳では10名以上、スポーツライミングでは5名以上であり人数が足りない場合は隣県への募集依頼も検討する必要がある。

これまで記載の無かった受講料に関しては、14,700円+消費税=15,120円を受講者から納入してもらうが、これは一旦県岳連へ納入後に県スポーツ協会へ全額納入するもので、

講師謝金等については補助されるものの、委託事業で該当にならない保険代、資料代、郵送費、他の必要経費については別途納入してもらうことになるので、募集要項作成時の記載については、「消費税込受講料 15,120 円+必要経費分〇〇〇円」とした記載方法に留意して欲しい。

受講条件と受検資格は同じ考えであり、検定受検資格は山歴が基本となるので、養成講習会受講申込時に山歴書を提出してもらい事前確認し不足がある場合は聞き取りして受講条件に合った人が受けるというのが基本であるが、指導委員会主催で開催している上級指導員養成講習会（氷雪・登攀・学科）で、申込が遅く確認時間が取れず山歴が足りない方がいたが、全部合格したことから不足する事項について 3 年の猶予期間を設けた事例があるが、原則受講申し込み時に確認していただきたい。

2019 年度版検定基準について（工藤・有枝）

2019 年 4 月からの新指導者制度改正に伴い検定基準（山岳とスポーツクライミング）を整備した。日本スポーツ協会のオフィシャルガイドに沿って基本的な事項に変わらないが、項目と配点が違って来ている。得点表では項目毎に「指導法」と「実技」が 1/2 ずつで算定されるようにしているので、関連様式については右上に 2019 と記載するので間違わないようにして欲しい。

これまで JSPO で出版していた「オフィシャルガイドブック」の印刷物が廃止になり、ホームページから PDF をダウンロードするようになってきた。

PDF は JMCA で作成したものであるが、山岳・コーチ 1 の場合、JSPO（日本スポーツ協会）ホームページを開き⇒スポーツ指導者⇒指導者資格を取りたい方（養成講習会）⇒競技別指導者資格コーチ 1（旧指導員）⇒資格概要・カリキュラム⇒山岳・コーチ 1⇒PDF をクリックすると 2019 年 4 月 1 日現在の資格概要が確認できます。アクセス先によっては旧カリキュラムが表示されるようなので注意して下さい。（JSPO へ改善対応依頼したい）

見直した箇所は年齢要件について、資格を段階的に取得することを考慮し認定の時期や活動期間等を踏まえ改正しているので受講条件の確認をしていただきたい。

スポーツクライミング指導者育成について（有枝）

スポーツクライミングのコーチ 1 に関しては、現在 5.10 以上のリードクライミングを条件としているが、各都道府県レベルにバラツキがあるので 10B 程度の要件で改正を考えている。金額や時間については JSPO からの通知を受けて変更はしていない。

スタートコーチ制度については、高校部活の先生や施設管理者等スポーツクライミングをアシストする方を対象として進めてきており整備は完了しているが、他の競技団体との兼合いから足並みが揃わず今年実施しないこととした。

コーチ制度はスタートコーチを含め 5 段階制度となっているが、コーチ 1 は国体監督の条件となっており、飛び級については、条件が合えばコーチ 2 までは可能であるが、コーチ 3 は自然壁やマルチピッチの経験がない方も多いためコーチ 2 の資格を有する者としている。

研修：JMSCA 公認 夏山リーダー資格・進捗状況（蛭田）

夏山リーダーのチラシについては、A4 版で 3000 ピクセル程度が必要とのことで写真も小さくこの程度になったが、誰もが分かるようにイメージとして槍を指している写真を使ったが、今後差替えも考えたいので制約されないものが有れば提供お願いしたい。チラシについてはトンボのついた PDF も作っているの、連絡先や QR コード等検討する必要があるが各都道府県山岳連盟（協会）で必要事項を記載し活用して欲しい。

公認夏山リーダー（案）関係規定集について、6 月 11 日の常任理事会に提出し承認されれば、令和元（2019）年 6 月 11 日から施行することになる。

大きく変わるところは、「マウンティング ウォーキング アンド トレッキング サマー」・「UIAA 準拠」の記載があったが、今年の夏に UIAA 認定を受けるための査察を計画していたが、UIAA の担当者からロープの研修を追加することと、講習会は机上 1 日、実技 3 日の 4 日間で考えていたが、6 日にして欲しいとの連絡があり、5 月 30 日に緊急会議を開催し延期することにした為該当箇所を削除した。

日程については各国での条件が違うので決めはないが、ロープ研修の内容は登るためのロープ技術ではなく、簡易ハーネスやトラバース時の通過方法など簡易なロープ技術と鎖場で登山者を安全な場所へ移動させる技術ということなので延期して検討時間を設けることにしたもので UIAA をやめたわけではないが、2019 年度から JMSCA として「夏山リーダー」講習会を始めるので関連した文言を抜いたものである。

JMSCA 公認夏山リーダー関係規定集は、「夏山リーダー講習会」と「夏山リーダー検定会」に分けて記載している。

夏山リーダー講習会は机上 1 日・実技 3 日で開催するが、3 ヶ月前に開催要項を配布するとしているが、これに拘らなくても良いので目安として考えて欲しい。

その際チラシも配布し QR コードを読み取ると JMSCA のホームページに入っていく、2019 年度の開催県が確認できるようなホルダーを作り、その中で開催要項や募集案内の確認と申込み書がダウンロードできるようにして、クリックすると各都道府県山岳連盟（協会）HP へ移れるような仕組みを考えている。

受講料については、4 日間の講習日程を考慮し 15,000 円以上を基本として、各都道府県山岳連盟（協会）の実情に応じた金額で開催することとしている。

委嘱書と受講者名簿を JMSCA へ提出すると、JMSCA から講習会用の「夏山リーダーテキスト」と「修了証」を送るので、「修了証」にあつては講習会終了後に該当者へ渡すものである。各事務処理の時期については、目安なので状況に応じて手続きを行ってほしい。また、受講者の追加等についても都度変更可能なので連絡いただきたい。

都道府県山岳連盟（協会）から JMSCA へは、テキスト代・パウホ等の講習会資料代・講習会修了証代として 2,000 円／人の講習会認定料を納入してもらう。

講習会の受講条件は、初心者の講習会ではなく「リーダー」講習会なので、満 18 歳以上で最低 2 年以上、20 回以上の夏山（冬山）登山経験を有する者を受講対象者としている。

また、資格を目指す方は講習会終了後、最低 10 回以上 3 ヶ所以上のモデル山域あるいはモデル相当山域での夏山登山経験を積み、実技試験（検定）2 日と学科試験（検定）を

受け合格すれば「夏山リーダー」資格がもらえる。

受検料は 10,000 円で検定会認定料が 3,000 円の合計 13,000 円になるが、山岳事故防止が目的であることから更新は無しとした。

JMSCA（ジムスカ）加盟団体の情報化の推進について（瀧本）

今後団体の法人化が求められており、ウェブでの情報発信、夏山リーダーに関する各都道府県山岳連盟（協会）へのリンク、会員の募集等 HP の活用が主になって来ている。

都道府県山岳連盟（協会）の多くは HP を作っているのですが、ジムスカのホームページの「加盟団体」に集約しており、HP 運用が 35 団体、ブログ管理が 4 団体、FB や SNS については 3 団体、全くないのが 6 団体となっており、フェースブックも良いが会の組織を説明するとかの記事については作りにくいので、JMCA で HP 構築支援を提案している。外注で作ると高額になるので、ジムスカ内の IT に詳しい方をお願いしても 10 万円程係るようなので、未整備の都道府県山岳連盟（協会）にあつては、共済会からの補助も受けながら初期構築費用 5 万円でサポートも可能なので HP 作成について活用して欲しい。

【2 日目】

<総会>

平成 30 年度事業報告及び令和元年度事業計画について（野村）

平成 30 年度事業報告から

- 2018 年 4 月 28～29 日に開催した氷雪技術研修会（上級指導員養成講習会）では参加者が多くバス 2 台をチャーターした。
- 2019 年 3 月 16～17 日に第 2 回の夏山リーダー講師養成講習会を実施しているが定員を超え漏れた方もいた。
- 指導常任定例委員会は毎月第一月曜日に開催している。
- 夏山リーダー検討会も毎月行っている。

令和元年度事業計画から

- 2019 年 4 月 28～29 日の氷雪技術研修会については、4 月 27～28 日に訂正。
- 2019 年 8 月 15～18 日夏山リーダー講習会について、査察は無くなったが予定どおり実施する、見学も可能。
- スポーツライミング主任検定員養成講習会の日程については、西日本は 11 月 9～10 日に神戸登山研修所で開催、東日本は 12 月 14～15 日に東京昭島スポーツセンターで予定している。要項は後日送付したい。
- 第 3 回夏山リーダー講師養成講習会が記載されてないが、2020 年 3 月



廣川事務局長・藤江副委員長・蛭田指導委員長

14～15日の氷雪技術常任研修会と同日、山岳スポーツセンターで開催することで明日の常任委員会で協議したい。

その他

- 来年度の指導員長会議については、オリンピック開催の影響で宿泊施設が未確定であるが、日程は2020年6月6～7日としたい。

登攀研修会、氷雪技術研修会および主任検定員養成講習会の令和元年度開催県（大阪）の確認と令和2年度の開催県の選定について（野村）

- 2019年10月26～27日登攀技術研修会は大阪府であるが、神戸のセミナーハウスで予定しているので多数参加をお願いしたい。（別紙開催要項参照）
- 氷雪技術や登攀技術研修会の目的として「上級指導員養成講習会」があるが、東京・千葉・埼玉での上級指導員養成講習会をやめて、富士山と大山での開催に移行してきており今年登攀技術は大阪開催であるが、来年度は広島県で開催予定しているので検討してほしい。尚、主任検定員不在の県では独自開催が難しいので指導委員会からの派遣もしており相談してほしい。（主任検定員分布資料参照）

指導者養成講習会について（蛭田）

- 指導員養成講習会については毎年12月頃県スポーツ協会から翌年度の講習会開催についてのアンケート調査があるので、実施すると回答した場合日本スポーツ協会HPに掲載される。山岳の場合、受講者が10名以上で県委託事業として開催出来るが、満たない場合は独自開催として各都道府県山岳連盟（協会）がJMSCAから委嘱を受けて開催することになる。また、受講者が少数の場合は近県で開催される養成講習会へ受講依頼することも可能なのでJSPOホームページの確認と手続きについて留意してほしい。
- 人数が少なく県スポーツ協会へ届け出せずにJMSCAへの実施申請を提出することで、都道府県山岳連盟（協会）での独自開催も可能である。（日本スポーツ協会HPには掲載されない）

平成30年度 全国義務研修会について（石原）

義務研修を開催していない県もあるが、実際に体制が取れないとか参加者が少ないとの理由で出来ないケースもあるが、理想的にはコーチ1～4に趣を置いた研修や実技研修を年2回くらい行って頂きたい。

JMSCAでの研修会も開催されているので参加頂きたいが、技術的なことが多い為コーチ2以上の方でないとは参加しづらいかもしれないので、JSPOや県スポーツ協会、消防、赤十字等の集合研修でも義務研修扱いになるので、JSPOホームページに掲載されているので参加周知をお願いしたい。尚、この場合は個人で義務研修実績登録をしなければならないので留意していただきたい。

他の競技団体が参加してもポイントが取れるので山岳での義務研修へ他からも参加して

いるようなので実績入力をお願いしたい。

指導員の推移について、2018年4月24日と2019年5月11日を比較してみたが、スポーツライミングは増加しているが、山岳は減少傾向にあり、原因は高齢化により更新しない方が多くなってきているのではないかと思われる。

コーチ1については養成講習会を各都道府県山岳連盟（協会）で開催出来るので増えているようだが、コーチ2については参加者が少ないと開催しないということで、主に中央で開催している養成講習会への参加が多くなっている状況である。

JMSCAとしては是非更新していただきたいので、義務研修の実施についてはコーチ1から4まで参加できる研修内容について検討をお願いしたい。

状態欄で「保留」となっている場合、現時点で4月更新対象者が更新料未納の場合には保留の状態となっている。有効期限切れとなっても義務研修の実績があれば更新可能なので更新手続きをして欲しい。有効期限切れでも義務研修を受けていれば「受講可」となっている。

3月までに行った研修会の実績入力は5月まで、9月までに行った研修会の実績入力は11月までとなっている。これは、JSPOが更新者への案内作業を6月と12月の中旬に行う、更新者に対するお知らせが7月と1月にするためである。時々JSPOから送付先が違ふとの問合せがあるが、住所変更等については個人で「指導者マイページ」から入力しなければならないので、やり方が分からない場合はJSPOへ問合せをいただきたい。

指導員資格の再登録について以前は難しかったが、有効期限が切れて半年の間に義務研修を受けてればJSPOから更新案内が来るが、1年を過ぎると更新案内は来ないので再登録申請をすることで更新案内が来るので手続きをすると再登録できるようになってきた。

山岳・スポーツライミング規約・規程の改定について（蛭田）

規約・規定についてはまだ未整備で、あと1~2カ月かかる見込みであるが、改訂内容については「日本体育協会」を「日本スポーツ協会」へ名称変更すること、関係規約・規程集【2019年度版】となっているが、「関係規定集」に統一すること、「公益社団法人日本山岳・スポーツライミング協会」と「公益財団法人日本スポーツ協会」の名称に変えることが主で他の内容はあまり変わらない。冊子に作っていたが、HPからダウンロードできるようにしたい。

スポーツライミングのコーチ1養成講習会について、受講条件に「5.10以上のリードクライミングができると判断された者」とあるが、2020年度からは、5.10Aに変更予定である。

その他

表彰について（蛭田）

2019年度 JMSCA 表彰候補者について

※指導委員長在任 15年以上（通算）が該当

青森県 川端 満 氏

栃木県 植木 孝 氏

埼玉県 瀬藤 武 氏

以上 3 名について 2020 年 1 月の新春懇談会での表彰報告があった。

ブロック別意見交換会

JMSCA 公認 夏山リーダー制度の進捗状況確認

4 ブロックに分かれ各都道府県山岳連盟（協会）での夏山リーダー講師養成講習会への参加状況及び講習会の開催予定等について状況確認した。

A ブロック：北海道、東北地区

講師養成講習会へは各県 1～2 名が参加しているので開催出来る土壌はできている。2019 年度に講習会を予定しているのは岩手県 9、10 月の 4 日間、宮城県 7、9 月の 4 日間（1 泊 2 日）、福島県は現在登山教室を実施しており夏山リーダーと併用出来ないか検討中、他は未定。課題として対象者と参加者の募集方法をどうするかとの意見があり、チラシの効果的な利用、高体連との連携、SNS の利用等について話し合った。

B ブロック：中部地区

今年開催は神奈川県が 11 月 9～10 日、11 月 23～24 日の 4 日間、山梨県は日程調整中、群馬県は登山教室に於いて夏山リーダーとリンクして机上 3 日、実技 2 日で検討中だが安い経費で開催しているので調整が必要。茨城県、新潟県は当面講師養成に傾注したい。東京は 8 月の中央開催に便乗したい。

検討課題として、現在実施している登山教室について夏山リーダーへの移行や参加者の募集方法、ジムスカでのサポート体制、高体連からの参加については顧問が山岳に関心があるとは限らないことや資格のメリット等についての意見がでました。

C ブロック：近畿地区

愛知県は 2019 年秋期に実施予定、近畿ブロック（2 府 4 県）では 2020 年度から計画、岐阜県は全日登山があるので 2020 年度から実施予定。夏山リーダー講師養成講習会に参加してない 3 県については、2020 年 3 月 14～15 日神奈川で開催される講習会へ参加予定。各都道府県山岳連盟（協会）で開催している講習会についても「夏山リーダー」として認定できるのかとの意見については、夏山リーダーの受講資格、カリキュラムに準じた時間数等もあってれば可能とのこと。

ジムスカ HP にも掲載するが、チラシ作成にあたっては、地元の山をキャッチコピーにすると親しみやすいと思うので、チラシの PDF 版を指導委員長宛に送るので活用いただきたい。

D ブロック：中国・四国・九州地区

今年夏山リーダー養成講習会開催県は無かった。広島県で今年 7 月～8 月に開催予定していたが中止となった。大半の県岳連（協会）では講師養成は受講しているので、内部講

師の育成に力をいれたいとの考えでした。

参加対象は一般や会員になるだろうが、高体連の先生を予定したいという意見については、雪山も行っているのでコーチ1でも良いのではとの意見もあった。

夏山リーダーに関する資料については、HP に載せる予定であるが、事前に講習会をやるためのツールについて A3 の地図を基に作成したものを各都道府県山岳連盟（協会）に送付するので参考にして欲しい。（蛭田）

蛭田指導委員長より

スポーツライミングと山岳の両方やっているのはジムスカだけなので、いろいろ問題もあるが、スポーツライミングに関しては来年のオリンピックに向けた指導者育成、山岳は遭難事故を少なくする為に夏山リーダーの立ち上げとそれぞれの使命があるので皆さんのご協力をお願いしたいとの結びの挨拶で2日間の日程を終了した。



令和元（2019）年度 全国指導委員長会議 2019.6.1～2